

ー117号目次ー

第40回日本保健医療行動科学会学術大会が福井市で開催されました	1
第40回日本保健医療行動科学会学術大会アンケート報告	2
「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集	3
第41回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内(第1報)	4
元村直靖先生を偲んで	5
2026年度総会報告/第14期役員・委員会構成	6
お知らせ	9

第40回日本保健医療行動科学会学術大会が福井市で開催されました

大会長 道信 良子
(福井県立大学看護福祉学部 教授)

日本保健医療行動科学会第40回学術大会が、2026年6月20日(土)から6月21日(日)に、福井市地域交流プラザ(AOSSA)において開催されました。学会のみなさま、ご参加いただきましたみなさまのお力添えにより、全国から77名のご参加をいただき、盛会のうちに終了することができました。心より感謝申し上げます。

1986年に設立した本学会には、医学、看護、福祉、医療行動科学の研究者や実践家が集まり、多彩な活動を行っています。

本大会のテーマは「行動科学の『知』を結ぶ——医療人類学、エスノグラフィ、パフォーマンス」としました。「病いや障がい生きること」「病いや障がい生きる人を支えること」そして「人を包むまち」などについて、エスノグラフィやパフォーマンス(創造的実践)も取り入れながら考えました。

会期中は、専門分野や立場をこえて知を持ちより、語りあい、学びあう2日間となりました。日本社会が抱えている孤独や不安に対して、さまざまな縁をむすび、人を包むまちをつくっていくきっかけをつかんでいただけたなら、大変うれしく存じます。

福井市地域交流プラザでの開催に際しまして、ゆきとどかない点も多々あったことと存じますが、スムーズな運営にご協力いただき、実行委員会一同、お礼を申し上げます。

次回大会以降に、みなさまとまたお目にかかれ
ますことをこころより楽しみにしております。



写真：道信大会長(会場 AOSSAにて)





第40回日本保健医療行動科学会学術大会アンケート報告

大会事務局長 蓮井 貴子

学術大会終了後、参加者のみなさまにアンケートへのご協力をお願いしました。回答者は大学教員・研究者が半数強を占め、そのほか、看護師、大学院生、行政関係者、理学療法士、薬剤師、精神保健福祉士、公認心理師など、多職種にわたりました。回答者のほぼ全員が「満足」とお答えくださいました。

満足した理由として最も多く挙げられたのは、多職種・多分野が交わる場であることでした。「思いもつかない発想や考え方に触れられる」「学問を超えた、感性への刺激と学びがあった」といった声が寄せられました。また、「どの方も、ご自身の専門性を相対化しよう、俯瞰しようという姿勢で議論に臨まれていることが素晴らしいかった」と書いてくださった方もいらっしゃいました。

プログラム全体については、「大会長講演、特別講演、シンポジウムを通じてのキー概念は『つながり』『場づくり』『多様性の受容』なのではないか」という感想をいただきました。「テーマが点から線でつながっていくように、自分はどうか考えるのか、余韻の残る大会でした」という声もありました。

大会長講演「ヘルス・エスノグラフィ」では、長年にわたるフィールドワークのプロセス、とりわけ小児がんの子ども意思決定をめぐるお話に、「人間が生きる原点の内容であり、すべての学問の土台になると再認識した」「涙が出ました」など、深い感銘を伝える声が寄せられました。

特別講演①「メンタルヘルスの人類学」では、共感が「単に感情移入ではなく、科学の視点、本人の視点、私たちとしての視点などの多層性があり、厚みがある」ものとして受け止められていました。

特別講演②「孤独社会におけるつながりの形成」は、孤独と孤立の違いを考える契機となり、大学生支援の臨床や「きく」ことの授業など、ご自身の実践に引きつけた感想も寄せられました。

シンポジウム「人を包むまち」では、医師・人類学者・アーティストという組み合わせに、「共通するテーマを見出すことができ、感動した」との声が寄せられました。在宅医療の枠を超えた実践には、「エネルギーが伝わってきて、こちらまで元気になった」との反響もありました。「支援者・被支援者という枠組みだけでは、真のインクルーシブとは言えないのではないか」「助け合いと支援は対立概念だ」など、支援のあり方そのものを問い直す感想も複数寄せられました。

一般演題については、「どのセッションも活発な議論が行われ、実践的な研究テーマが多く、大変勉強になった」と好評で、ポスター発表を通じて人脈が繋がったことを成果として挙げる方もいらっしゃいました。ワークショップは3題とも好評で、「答えを求めず、語り合えて、素敵な時間になった」「少人数ながら大変深い対話ができた」「毎年企画してほしい」といった感想が寄せられました。

運営面では、駅に近いコンパクトな会場が好評でした。また、懇親会の「自己紹介ビンゴ」も、「よいアイデア」「多くの方にご挨拶できました」と、交流のきっかけになったようです。「非会員の初参加にもかかわらず、長年の友人を受け入れてくださるかの如くの居心地のよさ」という、うれしい言葉もいただきました。

一方で、ポスター発表の時間、音響やスライドの視認性、荷物預かりのスペースについてはご要望もいただきました。これらは次回大会へ引き継いでまいります。

「穏やかな、そして深みのある、素敵な学会でした。帰宅途中で幸せな気持ちになれた」というお声もいただきました。

ご参加いただいたみなさま、そして大会運営にご協力くださったみなさまに、あらためて心より御礼申し上げます。



写真：左 蓮井大会事務局長、右 道信大会長
(会場 AOSSAにて)

「中川記念奨励賞」候補者ならびに「奨励研究員」の募集

【日本保健医療行動科学会中川記念奨励賞】

中川記念奨励賞の候補者を募集いたします。受賞年度において 45 歳未満もしくは学会入会后 10 年未満の通常会員で、保健医療行動科学に関する学術的研究あるいは教育を含む諸活動において、顕著な業績を上げている方が受賞の対象になります。自薦・他薦いずれでも結構ですので、奮って応募してください。応募者は、本学会 Web サイトに掲載されている最新の「中川記念奨励賞内規（2023.6.17.最終改定版）」及び「中川記念奨励賞候補者の業績についての選考内規（2023.6.17.最終改定版）」を参照の上、履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。



「ネス湖のほとりまでドライブ」
(中川晶先生 作)

【日本保健医療行動科学会奨励研究員】

本学会では奨励研究員の制度を設けています。これは正会員で、関連分野での研究活動を行いながらも常勤の所属に恵まれない方々のために、少しでも社会的不利益を補完・救済することを目的とした制度です。この身分を希望される方は、希望の理由と履歴書及び研究業績リストを学会事務局に送付してください。奨励研究員の呼称を認められた方は「日本保健医療行動科学会奨励研究員」の身分を用いて論文の執筆や学会発表ができます。対象者の年齢制限はなく、任期は 1 年間とし、状況に応じて更新が可能です。審査・登録にかかる費用は無料です。応募期限は特にありません。



第41回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内(第1報)

■テーマ 「保健医療行動科学の変遷と新たな知的技術時代の展望
-これからのケアのあり方を問う-(仮)」

■会 期 2027年6月26日(土)・27日(日)

■会 場 ウィンクあいち

■大会長 上杉 裕子(金城学院大学看護学部看護学科 教授)

■主 催 日本保健医療行動科学会

このたび、2027年6月26日(土)・27日(日)の2日間にわたり、愛知県名古屋市「ウィンクあいち」にて「第41回日本保健医療行動科学会学術大会」を開催させていただきますこととなりました。

本大会のテーマは「保健医療行動科学の変遷と新たな知的技術時代の展望-これからのケアのあり方を問う-(仮)」です。近年のAIをはじめとする新たな知的技術の日常生活への影響はますます大きくなってきています。保健医療においても患者がご自分の健康管理のために、また、医療者が業務の効率化にAIを活用するということも日常になりつつあります。

しかし、私たち医療者が患者と関わる中で、「人でなくてはならない大切な部分」もそこにはあります。保健医療行動科学はまさしく「つねに患者の側に立ち、保健医療を改革していこうとする」学会であり、「人間がそれを用いること」「しかし、ここは人が関わるのが大切であること」など、改めて、その変遷を振り返りながらこれからの「ケアのあり方」を議論する場にしたいと思っています。

皆様のご参加をお待ちしています。

大会長 上杉 裕子



【重要】Eメールアドレス登録のお願い

会員管理システムの導入に伴い Eメールアドレスの登録が必須となりました。Eメールアドレスが未登録の方は、すみやかに学会事務局(info@jahbs.info)までお知らせください。すでに Eメールアドレスをご登録いただいている場合の変更は、会員管理システムからご自身で可能です。



元村直靖先生を偲んで

任 和子（京都大学大学院医学研究科）

元村直靖先生の訃報に接し、言葉を失いました。長くご指導をいただいた身にとって、これほど寂しいことはありません。

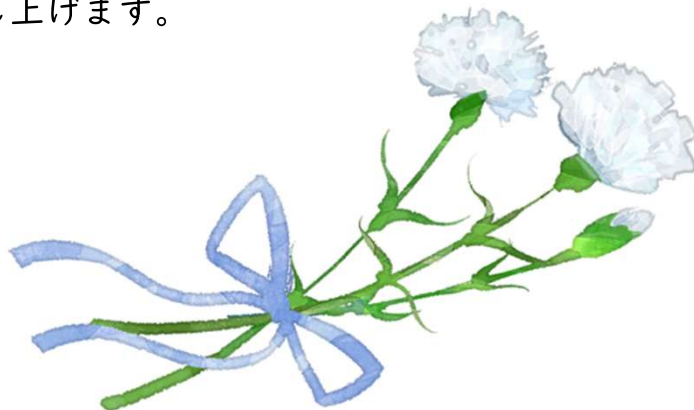
私が元村先生に初めてお目にかかったのは、本学会の第9回学術大会でした。その後、大阪教育大学大学院に入学し、修士論文の指導を受け、研究の方法だけでなく、研究者としての姿勢、そして知識に真摯に向き合う態度を教えていただきました。いま私が大学院生を指導する立場になっても、そのときに学んだことが土台になっています。

大学院を修了してからも、私は折にふれて教えを乞いました。動機づけ面接研究会のように、新しい知見を保健医療の実践へとつないてくださったことも忘れられません。精神医学を専門としながら、「病いや障がいとともに生きる人間」を深く見つめ、領域を越えて思索を重ねられる先生の姿から、多くを学びました。

先生は本学会の比較的早い時期から評議員として活動され、第10期からは理事や監事を長く務められました。年次学術大会はもとより、持ち前の国際感覚と語学力を生かし、本学会が開催した国際会議でも実行委員や座長などを務め、国際交流にも大きく貢献されました。そして亡くなられるまで、第14期の現役理事として学会を支え続けてくださいました。

2011年、先生が大会長を務められた第26回学術大会で、私は実行委員長を務めました。それから13年を経た2024年、第38回学術大会では私が大会長を務め、先生は車いすでご家族とともに会場に来てくださいました。滞在は短い時間でしたが、講演を聴き、抄録にも目を通してくださいました。普段はどちらかといえばクールな先生が、そのときはとても優しい笑顔で私を励ましてくださいました。その笑顔が、私にとって先生との最後の大切な記憶です。

学び続けること、知ることに誠実であること。元村先生から受け継いだものを、これからも大切にしていまいます。長い間、本当にありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



2026年度総会報告

会員マイページにて事前にお知らせした議案書（総会資料）に基づき、2026年度総会が次の通り開催されましたので、ご報告いたします。

日 時：2026年6月20日（土） 13：00－13：50

会 場：福井市地域交流プラザ AOSSA 602

参加者：学会員

1. 開会宣言（第14期会長 諏訪茂樹）

2. 議長・書記の選出

議長：馬込武志 書記：瀬在 泉

<審議事項>

3. 《第1号議案》2025年度事業報告（総会審議資料1）

報告の通り、異議なく承認となる。

4. 《第2号議案》2025年度収支決算報告（総会審議資料2）

報告の通り、異議なく承認となる。

5. 監査報告

決算報告の通り納入・支出がなされ、証拠書類の保存、整理及び帳簿への記帳は良好であり、適切に運営されたことが報告される。

6. 《第3号議案》2026年度事業計画（総会審議資料3）

報告の通り、異議なく承認となる。

7. 《第4号議案》2026年度予算案（総会審議資料4）

予算案の通り、承認となる。

8. 研究助成規程について（総会審議資料5）

規定案の通り、異議なく承認となる。

9. 雑誌投稿規程の改定について（総会審議資料6）

改定案の通り、異議なく承認となる。

<報告事項>

10. 第14期役員・委員会構成について（総会報告資料1）

1) 2026年6月20日現在の顧問（7名）、理事（18名※会長任命理事を含む）、監事（2名）、評議員（22名）について、また各委員会の委員構成について報告された。

2) 下記の評議員2名について、「総会報告資料1」に記載漏れがあったため、口頭により訂正された。

鷹田佳典（社会学）

馬込武志（心理・福祉学）

3) 元村直靖理事逝去によるA理事（医学系）並びに中川記念奨励賞選考委員会、利益相反委員会（特別）の欠員1名については、今後、理事会で審議することが報告された。

11. 議長・書記の交代

議長：諏訪茂樹 書記：酒井幸子

12. 支部活動報告・収支決算報告

1) 東京支部

ダイアロジカル・スーパービジョンをテーマとした3日間集中セミナー（2025年10月）、動機づけ面接とコーチングをテーマとした研修会（2026年2月）を実施したことが報告された。

2) 北海道支部：休止中

3) 近畿支部：休止中

13. 第41回学術大会長の挨拶

上杉裕子大会長（金城学院大学）からご挨拶いただいた。

14. 第40回学術大会長の挨拶

道信良子大会長（福井県立大学）からご挨拶いただいた。

15. 2026年度中川記念奨励賞・奨励研究員報告

いずれも2026年度の応募はなく、引き続き2027年度について募集することが報告された。

16. 閉会の挨拶

第14期役員・委員会構成

▼役員構成（2026年6月現在）

第14期役員＜任期2025年6月1日～2028年5月31日＞

〈顧問〉

末松弘行（医学）、仲尾唯治（社会学）、藤崎和彦（医学）、南 裕子（看護学）、宗像恒次（健康科学）、Brian Hurwitz（ブライアン・ハーウィッツ）（医学、英国）、John Launer（ジョン・ローナー）（医学、英国）

〈会長〉

諏訪茂樹（社会学）

〈副会長〉

岡 美智代（看護学）、樋口倫子（心理・福祉学）

〈理事〉

梓川 一（心理・福祉学）、岡 美智代（看護学）、上山千恵子（看護学）、河口てる子（看護学）、小林好信（健康科学）、酒井幸子（社会学）、白土菜津実（看護学）、諏訪茂樹（社会学）、中川 晶（医学）、任 和子（看護学）、花家 薫（健康科学）、蓮井貴子（看護学）、樋口倫子（心理・福祉学）、深井穫博（歯学）、道信良子（社会学）、村上 真（健康科学）、元村直靖（医学；2025年6月～2026年5月）、安酸史子（看護学）、吉岡隆之（健康科学）

〈監事〉

天野雅夫（社会学）、宮本眞巳（看護学）

〈評議員〉

上杉裕子(看護学)、大芦 治(心理・福祉学)、村岡 潔(社会学)、
岡本響子(看護学)、川村千恵子(看護学)、小坂素子(看護学)、
紺井拡隆(歯学)、佐藤富美子(看護学)、瀬在 泉(看護学)、
徐 淑子(社会学)、平 英美(社会学)、鷹田佳典(社会学)、
高橋さつき(看護学)、二瓶映美(看護学)、林 哲也(心理・福祉学)、
藤田裕一(心理・福祉学)、本庄恵子(看護学)、馬込武志(心理・福祉学)、
松田 聡(医学)、山口 豊(心理・福祉学)、山崎裕美子(看護学)、
渡辺理和(社会学)

<以上、顧問7名、理事18名(会長・副会長を含む)、監事2名、評議員22名>

▼委員会構成(2026年6月現在)

第14期役員<任期2025年6月1日~2028年5月31日>

【編集委員会(常設)】

樋口倫子(編集委員長・査読主担当)、上山千恵子(校閲・J-Stage主担当)、
小坂素子(校閲・J-Stage副担当)、吉岡隆之(規程等担当)、他、道信良子、
梓川 一、岡 美智代、諏訪茂樹、瀬在 泉、任 和子、蓮井貴子、花家 薫、
深井穫博

【広報委員会(常設)】

岡 美智代(委員長)、小林好信(Web管理担当)、
白土菜津実(ニュースレター主担当)、二瓶映美(ニュースレター担当)

【中川記念奨励賞選考委員会(常設)】

河口てる子(委員長)、梓川 一、安酸史子
(以上、理事から選出 ※1名欠員)
岡本響子、鷹田佳典、林哲也、藤田裕一
(以上、評議員から選出)

【利益相反委員会(特別)】

安酸史子(委員長)、梓川 一、河口てる子
(以上、理事から選出 ※1名欠員)

【企画運営委員会(特別委員会)】

諏訪茂樹(委員長・教科書担当)、梓川 一、岡 美智代(共同研究企画担当)、
上山千恵子、小林好信、酒井幸子、白土菜津実、河口てる子、中川 晶、任 和子、蓮井貴子、
花家 薫、樋口倫子、深井穫博、道信良子、村上 真(学術大会デジタル担当、オンライント
ーク)、元村直靖、安酸史子、吉岡隆之

【国際交流委員会】

道信良子(委員長)、中川晶、吉岡隆之

【総務担当】

小林好信(会員管理、会計、Web管理担当)
酒井幸子(総会、理事会、事務局労務管理、選挙担当)



日本保健医療行動科学会雑誌「投稿論文」随時受付中！

- 学会雑誌に掲載する投稿論文は随時受け付けています。
- 雑誌の発行は年2回（6月及び12月の予定）です。
- 投稿原稿の種類は、原著論文、総説、研究ノート、資料、実践・活動報告です。
- 投稿論文は「オンライン投稿・査読システム（Editorial Manager®）」にて受付となります。
- 投稿手順等の詳細は本学会 Web サイト（<https://www.jahbs.info/>）の「『雑誌』投稿について」のページに掲載しています。



会員募集のお知らせ



会員の皆様には、本学会に興味や関心のありそうな方々に、本学会への入会をお勧めくださいますようお願いいたします。

なお、「日本保健医療行動科学会入会のご案内」は、本学会 Web サイト（<https://www.jahbs.info/>）からダウンロードができます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。



事務局便り



●2026年度会費（2026年4月1日～2027年3月31日）及びそれ以前の会費が未納の方は、早急に「会員管理システム」よりお支払いの手続きをお願いいたします。会費納入に関してご不明な点やご相談などがございましたら事務局にご連絡ください（会員管理システム導入に伴い、会費の納入はオンラインでの銀行振込（りそな銀行宛）またはクレジットカード決済（各種）となります）。詳しくは本学会 Web サイトをご参照ください。

●2013年6月（第10期）以降の理事会議事録及びニュースレター（第81号～第99号）を学会 Web サイトの会員専用ページに掲載しています。会員専用ページへのリンクは会員マイページトップにあります。ニュースレター第100号以降は学会 Web サイトで一般公開しています。

●退会をご希望の場合は、本学会 Web サイトから退会届の様式をダウンロードし、必要事項をご記入の上、PDF ファイルをEメールに添付して事務局に送付してください。

（事務局連絡先：info@jahbs.info）



編集後記：ニュースレター117号を発行するにあたり、お忙しい中、原稿を寄せて下さいました皆様に心より御礼申し上げます。今回は、様々な方々に読んでいただけるように、ユニバーサルデザインのフォントを取り入れて作成いたしました。

今年の夏は、熊本での大地震、千葉をはじめ各地での台風や豪雨により甚大な被害が発生しました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りしております。

最後に、本学会の発展に多大なご尽力を賜りました、元村直靖理事の生前のご厚情に、改めて感謝申し上げます。（二瓶）

